

放課後等デイサービス 夢門塾 自己評価表

○本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。
 「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

事業所名 夢門塾 伴東

公表日

2026年 1月

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		・法令の設置基準に基づき、適切な設備等が配置されている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	5	・人事部と連携し、求人对応を行うと同時にリファラルの協力を定期的に呼びかけている。	・送迎時など手薄になる時間帯がある。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		・出勤者や日課など、個々の特性や理解度に応じた表示をところかきけている。設計上回避できない段差については、マットを敷くなどの工夫をしている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		・日々の清掃や定期的な空調のフィルター掃除など衛生的な空間づくりに努めている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		・クールダウンや個々の特性に配慮し、適宜、個室の使用を促している。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	5		・職員の入れ替わりもあり、事業所目標が周知しきれていなかったため、再度、周知徹底を行う。 ・日々、職員間で課題を話し合う。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	2	・自社HPにて毎年、公表をしている。保護者アンケートの実施方法や結果について支援会議で協議を行う。	・今年度は、オンライン形式を主体として実施した結果、回答率が前年より下回る結果となった。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・事業所会議など職員の意見交換の場を設けている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	5	・顧問、他事業所のラウンドにより事業所評価を行い、改善点を確認している。	・今年度、アンケート集計時点では実施していない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		・夢門塾全体研修、エリア研修を通じて専門性のスキルアップに取り組んでいる。可能な限り、外部の研修にも参加する機会を設けている。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		・自社HPにて公表している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		・障害特性、愛着形成、生活環境、関係機関からの情報などを含めて、計画作成を行っている。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		・ケアカンファレンスには児童指導員も参加し、個々の課題について見直しや立案を行っている。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	5	・ケアカンファレンスへの参加など、計画作成のプロセスに参加してもらっている。	・すべての職員の理解には至っていない。 ・計画の一覧など、わかりやすい形での周知に努める。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		・愛着や自閉症の特性、幼児期の動作獲得の指標を参考にしたり、日々の利用時の時間帯別の行動観察を行い、支援計画作成の資料としている。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		・本人支援が中心となっているが、必要に応じて関係機関との連携を行っている。小学校から中学校など大きなライフステージの変化では、移行先と連携を取ったケースもある。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		・主担当を輪番にすることで、どの職員も何らかの形で支援プログラムの策定に従事している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		・他の夢門塾と支援プログラムを共有することで、取組のマンネリ化が起きないよう工夫をしている。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		・専門的支援計画の実施をすることで、集団・個別の活動により一層メリハリをつけている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		・朝礼でその日の変更や近日中の留意事項を共有している。見守りをする際の適切な配置を再度確認している。	・主な役割分担は出来ているが、手薄になっている場所などに気づけず対応が遅れることがある。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	5	・サービス提供時間の変更や送迎範囲の見直しなど送迎後の時間に余裕が出来るよう対応をしている。	・行っているが、毎日ではない。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		・記録を効率化することにより、時系列や活動別の記録を行っている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		・最大6ヶ月に1回のモニタリングを実施している。	・モニタリング実施日は余裕を持って計画するように努める。 ・感染症などにより、日程調整が上手く回れないケースがある。
24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	10		・自社HPでも公表するように、屋内外の活度や集団、個別、季節の活動など多岐にわたりサービスの提供を行っている。		
25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を促す力を育てるための支援を行っているか。	10		・子どもたちのNOを一度受け入れた上で、選択肢を提示することで自分の行動を自分で決める機会を作るよう努めている。		
26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		・児童発達支援管理責任者や一定の研修を受けたものが担当をしている。		
27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		・家庭相談センター、協力医療機関と連携を行い、必要に応じて情報共有や相談援助を行っている。		
28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10		・送迎時の様子伺いや特定の学校とは児童の状況を共有できる体制を確保している。		

関係機関や保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	6	・直接の連携はないが、相談支援専門員を通じての情報共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	6	・該当する利用児がいないため、今後、設問にあるようなニーズが生じた際には連携を図っていく。	・該当者がいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	5	・こども療育センターの年間研修計画を掲示し、研修参加の機会を設けている。	・勤務都合などで、研修に参加できないことがある。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	10		・地域の公園で活動をする際、地域の児童と交流の場面がある。機会があれば、地域行事への参加を考えている。	・地域行事に参加する機会がない。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	4	6	・基幹相談支援センターとは連携が取れる体制を整えています。	・地域部会に参加ができていない。今年度中の参加に向けて調整している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	10		・送迎時を始め、コドモン、LINEworksなど複数の連絡ツールを活用し、情報共有を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	6	・普段から支援の様子を見に来れる環境は作っている。	・次年度は、企画としての保護者説明会を実施していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		・契約時を始め、算定する加算の変更があったときなど保護者に変更点を通知している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		・本人のニーズ、保護者の考えるニーズ、支援者から見たニーズを総合的に判断し、計画作成に取り組んでいる。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		・計画作成時、更新時に対面して説明、同意を得ている。	
保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		・本人以外のきょうだい児の相談援助を始め、家庭環境等への相談援助を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10			・保護者会が組織されていないため、実施できていない。保護者アンケートを通じてそういった会の要望が出た際は、あらかじめ検討をする。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		・苦情解決の体制を整備し、マニュアルを遵守し適切に対応を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		・ゆめだより、夢通信、ゆうゆう便などを配布し、日々の活動内容の周知に努めている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		・使用範囲について、必要に応じて同意書を取るなどの対応をしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		・口頭のみではなく、文章で伝えたり、前日に予定確認をするなどの配慮をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10		・地域子ども会の行事に備品の貸し出しなどの協力を行っています。	・行事の開催、招待には至っていない。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	6	・異常変災時の対応など、緊急時には本社からの指示に従い状況に応じた対応を行っている。マニュアルについては、ファイリングし、いつでも閲覧可能な状態としている。	・(家族へ)周知されていないように思う。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	5	・BCPの作成は完了している。	・訓練が実施できていない。 ・非常時の対応を想定した訓練を年度内に実施予定。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		・契約時のサポートファイルにて配慮が必要な事項は確認をしている。	
非常時等の対応	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		・食物アレルギーの個別の対応が必要となる児童については、別紙ファイルを作成している。また、行事食などもアレルギーに配慮して楽しめるものを企画している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		・安全計画に従い、車両管理や降ろし忘れ装置の設置を行い、安全な送迎に努めている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		・入所、退所時間をアプリから通知することで、保護者に子どもの状況を伝えている。事業所内に防犯カメラを設置することで有事の際に検証が出来るようにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		・事業所内で共有し、事業所会議では対応策等を周知している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応を図っているか。	10		・年に2回以上の虐待防止研修を実施。虐待防止委員会を実施、内容の周知を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10		・身体拘束適正化の指針に沿って、身体拘束は必要最小限にすると同時に事前説明や記録を行っている。	
	保護者様評価、自己評価についてまとめ					
運営も2年目に入り、多くの方にご利用をいただいている。職員も今年度内に勤務が始まったものも多く、周知事項や保護者との連携で充分でない事項もあった。通所する子どもたちはもちろん、保護者の方、地域の方に理解と安心を持っていただける事業所運営に努めたい。						